

報道関係者各位(研究開発情報)

2012年(平成24年)5月1日

当社独自技術「微細乳化製法」を用いた コエンザイムQ₁₀の吸収性を実証

2012年3月28日～31日に開催された日本薬学会第132年会にて発表

株式会社ファンケル(本社:横浜市中区、代表取締役社長執行役員:成松義文)では、コエンザイムQ₁₀に関する様々な研究を行ってまいりましたが、当社独自開発の吸収性に優れた微細乳化製法^{*1}を用いたコエンザイムQ₁₀の吸収性についてヒト臨床試験を行い検証いたしました。

その結果、微細乳化製法コエンザイムQ₁₀は、一般的なコエンザイムQ₁₀よりも吸収性が高いことが確認されました。

以下に研究の概要および結果をお知らせいたします。

研究の概要

【研究の経緯】

コエンザイムQ₁₀は抗酸化作用や疲労軽減などの様々な機能性が期待されていますが、経口摂取した場合の吸収性が低いことが知られています。そこで、当社は吸収性を高めた『微細乳化製法コエンザイムQ₁₀』を開発し、2011年11月に同製法を用いたサプリメントを上市いたしました。本研究では、この微細乳化製法コエンザイムQ₁₀サプリメントについて、実際に吸収性が改善しているかをヒト試験で検証いたしました。

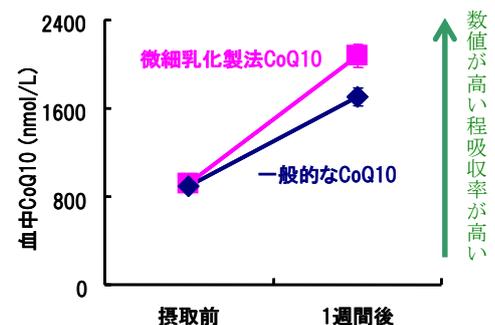
【研究の方法】

健康な成人男女 43名を対象としたクロスオーバー試験^{*2}により、微細乳化製法コエンザイムQ₁₀と一般的なコエンザイムQ₁₀を1週間摂取した場合の血中のコエンザイムQ₁₀濃度を比較いたしました。

【研究の結果と考察】

微細乳化製法コエンザイムQ₁₀を摂取した方が一般的なコエンザイムQ₁₀を摂取した時よりも、1週間後の血中のコエンザイムQ₁₀濃度が有意に高値であることが示されました(図I)。また、微細乳化製法コエンザイムQ₁₀を1週間摂取することで、血中の酸化ストレス度が有意に減少することも示されました。

以上のことから、微細乳化製法コエンザイムQ₁₀を摂取することで、効率よくコエンザイムQ₁₀を体に取り入れ、酸化ストレスから体を守る



【図 I 血中CoQ₁₀濃度の変化】

(株)ファンケル

本社:神奈川県横浜市中区山下町 89-1
代表取締役社長執行役員:成松 義文
設立:1981年8月

本件に関するお問い合わせ
広報グループ 岩本浩昭:045-226-1230

ことができることを確認いたしました。酸化ストレスは、血管、肝臓、腎臓、脳、肌など体中のさまざまな部位の障害を引き起こし、老化や病気の原因ともなります。したがって、微細乳化製法コエンザイムQ₁₀を摂取することで、老化の進行を遅くする働きや、病気の予防・改善が期待できます。

【研究発表と今後の展開】

本研究内容は、2012年3月28日～31日に開催された日本薬学会第132年会にて「O/D型乳化組成物によるCoQ₁₀吸収性への影響」として発表いたしました。当社では今後も、微細乳化製法の技術を用いて、効率良く機能成分を摂取できるサプリメントの開発を進めてまいります。

用語説明

※1 微細乳化製法

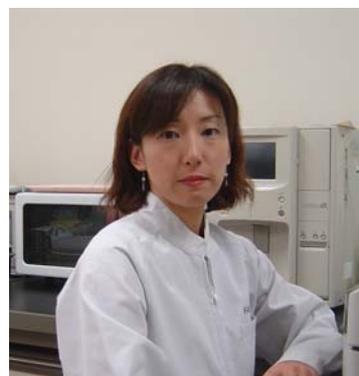
コエンザイムQ₁₀は脂溶性成分のため、水に溶けにくく体に吸収されにくい成分です。微細乳化製法は、脂溶性の成分(コエンザイムQ₁₀)が水に触れると、自然に素早く微細に乳化されて水になじむファンケル独自の製法です。

※2 クロスオーバー試験

各被験者がすべての被験品を無作為の順序で割り当てられる試験のこと。例えば、2群比較の場合は、被験品Aを摂取してから被験品Bを摂取する群と、反対に被験品Bを摂取してから被験品Aを摂取する群に分けられます。同一被験者で2つの被験品を比較できる試験方法です。

研究者のコメント

コエンザイムQ₁₀の吸収性を高めるため、ファンケルの製剤技術を駆使して、『微細乳化製法コエンザイムQ₁₀』が生まれました。開発当時、『微細乳化製法コエンザイムQ₁₀』はビーカー内で水に素早く、さっと広がり、吸収性が高まることを期待させてくれました。しかし、実際ヒトで確認してみないことには、吸収性が高まったとは言えません。そして、その実力をヒトで確認したところ、本当に吸収性が高まっており、微細乳化製法の実力が本物であることを確認することができました。コエンザイムQ₁₀は、健康な体や肌を保つためには欠かせない成分あり、多くの方に摂っていただきたい成分です。吸収性の高まった『微細乳化製法コエンザイムQ₁₀』の実力を、是非皆様も実感してみてください。



Profile 松岡 小百合 (まつおか さゆり)

(株)ファンケル 総合研究所 健康食品研究所 機能研究グループ所属。

1990年 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科ライフサイエンス専攻修了後、同年(株)ファンケル入社。以来、サプリメントの機能性研究に従事。

本件に関するお問合せ先：株式会社ファンケル 社長室 広報グループ 岩本浩昭
TEL:045-226-1230 / FAX:045-226-1202
〒231-8528 横浜市中区山下町 89-1 ファンケルビル